



一人の市民研究家が研究に没頭してつくり出した花の新品種。評判もよく有望な花きビジネスに成長させられると思われた矢先に研究家が急逝。中心人物を失い、事業の前途に暗雲がさしかけたが、盟友が新規に農業生産法人を立ち上げ、故人の遺志を継いで事業を継承することになった。

株式会社みどりファーム
代表取締役 佐々木英夫氏



売る苦勞をするのではなく売れるものをつくる

愛好家の多い花の品種を改良
量産して販売する体制を構築

キンポウゲ科のクリスマスローズは、派手さはないものの可憐な風情で世界的にも愛好家の多い花だ。美しく育ったものは数万円の値で売買されることもある。

このクリスマスローズの研究家として国内では第一人者であったのがかつて鹿角市に所在した高杉種苗の高杉繁雄氏であった。本業の山林種苗の生産販売事業のかたわら、高杉氏はクリスマスローズの新品種の開発に没頭し、従来種の半分ほどの大きさの花づくりに成功して「舞妓高杉(まいこたかすぎ)」という商標を登録した。

園芸ショップの日本最高峰のひとつとして日本橋三越屋上のチェルシーガーデンが挙げられるが、ここでも舞妓高杉は高い評価を得ていた。

しかし高杉氏には花き販売の十分なノウハウがなかったため、高杉氏の高校の同窓生だった佐々木英夫氏が勤める履物卸問屋みどり商事(秋田市)が、高杉種苗から花を仕入れて全国に販売するという連携が始まった。

開発者の急逝で計画が頓挫
体制の立て直しが急務となる

絶対的な自信作である舞妓高杉をクリスマスローズの本場であるヨーロッパにも輸出しようと、販路開拓に見通しがついた矢先の2011年11月、高杉氏は脳溢血で急逝してしまった。前の冬の豪雪でハウスが倒壊したり震災で流通が止まって花を出荷できなくなってしまったことなどで心労がたまっていたのかもしれない。

いよいよこれからという時期の高杉氏の逝去で周囲は混乱したが、舞妓高杉への思いが、販売業務を担っていたみどり商事に事業の継承を決意させた。ただし、農地法の関係のみどり商事本体としては農地を取得できないため、2012年9月に佐々木英夫氏が代表者になり農業生産法人として株式会社みどりファームを立ち上げたものである。

収益性の悪い山林種苗事業は取りやめ、通年でクリスマスローズやその他の宿根草(多年草)の生産販売に特化することにした。

みどりファームは花き生産では後発で、佐々木社長も花づくりの専門家ではないが、前職で培った営業力を駆使して東京太田市場や名古屋豊明市場など全国の名だたる花き市場に取引口座を設けている。また、市場側からは売れ筋の花の情報収集に特化して確実に売れる花だけをつくり、確実に売れる場所に供給するという合理的な発想で花き生産を行っている。

新体制での出荷は今年度から
後発の発想で販売戦略を組む

今年から秋田県潟上市のブルーメッセあきたとの取引も始まり、今年に引き続き来年1月にもクリスマスローズ展示即売会の開催を予定している。通常は2月開催が一般的であり、この時期の開催は全国でトップを切る形になる。また、舞妓高杉という“目玉商品”もあるので、全国から多くの愛好家が訪れるだろうと期待されている。

「来年からはブルーメッセでの販売とともに、インターネット通販での販売に力を入れていこうと考えています。愛好家は自分の欲しい花を厳選しがりますから、一枚一枚写真を掲載したオンラインショップで直接愛好家に販売する体制を整えていきたいと思っています」(佐々木社長)

盟友の遺志が受け継がれて、秋田生まれの可憐な花がいよいよ全国、全世界の花を愛する人たちに届けられようとしている。

株式会社みどりファーム

〒018-5202
秋田県鹿角市尾去沢字上大屋布63-2
Tel.0186-25-8301
Fax.0186-25-8302
http://takasugifarm.com/
E-mail takasugi-mdr@ink.or.jp

■創業/平成24年
■資本金/50万円
■売上高/—
■社員/8名
■事業内容/花き生産販売



A 雇用面では高杉種苗時代からの従業員を引き継いだ。
B 新会社で最初の商品になるクリスマスローズが生育中。
CD クリスマスローズは交配によって多様な花の色や模様が出現するのが魅力だ。
E 今後は広大な用地を生かしハウスを再整備し、通年で花き生産を行う。

